

あおぎり

～学校自己評価特集～



平成21年度

NO.24

平成22年2月19日

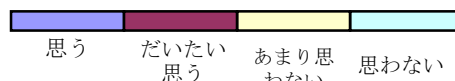
須坂市立森上小学校

今年7月に、昨年度と同様に、保護者・児童を対象に森上小学校の教育活動に関するアンケートをとりました。そのアンケート結果をもとに、職員の日々の取り組みについて自己評価をしました。そして、改善が必要な面について意見交換をし、改善の方策について考えました。その調査の結果がまとまりましたので、お知らせします。

アンケート結果には、森上小学校の子どもたちの頑張っている姿や抱えている問題点が表れています。ご覧ください。

(1) 保護者アンケート結果

質問項目に対して「思う」「だいたい思う」「あまり思わない」「思わない」の4段階で回答してもらいました。その結果、グラフのようになりました。グラフの左の領域から「思う」「だいたい思う」「あまり思わない」「思わない」の割合を表します。



| No. | 質問項目 | 思う | グラフ | 思わない |
|-----|--|------|------|------|
| 1 | あなたのお子さんにとって、家庭学習（宿題）はよい復習の時間になっていると思いますか？ | 約45% | 約55% | 約0% |
| 2 | 読書は、あなたのお子さんにとって知識を広げたり、読む力を高めるなど、自分のためになっていると思いますか？ | 約45% | 約55% | 約0% |
| 3 | あなたのお子さんにとって、学校の授業はわかりやすいと思いますか？ | 約35% | 約65% | 約0% |
| 4 | あなたのお子さんは、ねばり強く考え、自分の力を伸ばそうと授業に取り組んでいると思いますか？ | 約15% | 約45% | 約40% |
| 5 | 授業の時に担任の先生以外の先生が教室にいたり少人数で授業を受けたりすることは、あなたのお子さんにとって勉強がわかりやすくなっていると思いますか？ | 約45% | 約55% | 約0% |
| 6 | あなたのお子さんは、だれにでも気持ちのよいあいさつをしていると思いますか？ | 約35% | 約65% | 約0% |
| 7 | あなたのお子さんは、お友だちが困っているときに、声をかけてあげたり手伝ってあげたりして、助けてあげることができていると思いますか？ | 約35% | 約65% | 約0% |
| 8 | あなたのお子さんは、だれとでも仲良く遊んだり、運動したりしていると思いますか？ | 約35% | 約65% | 約0% |
| 9 | あなたのお子さんは、学校のきまりを守ったり、友だちとの約束を守ったりしていると思いますか？ | 約45% | 約55% | 約0% |
| 10 | あなたのお子さんは、目標を決めたらそれに向かって努力し続けることができていると思いますか？ | 約35% | 約65% | 約0% |
| 11 | 本校は、保護者の方からの連絡や相談に迅速・的確に対応していると思いますか？ | 約45% | 約55% | 約0% |
| 12 | 遠足・修学旅行・峰の原自然体験学習・音楽会・運動会等の行事は、あなたのお子さんにとって意味ある行事になっていると思いますか？ | 約55% | 約45% | 約0% |

<<保護者アンケートのまとめ>>

学習面では、No.1「家庭学習は復習の時間になっているか」、No.2「読書は力になっているか」、No.3「授業はわかりやすいか」に対して、「思う」「だいたい思う」合わせてほぼ90%に達し、学習や読書の一定の効果を認めている。また、No.5「少人数学習・TT学習は効果があるか」では、90%を超える保護者が効果を認めており、効果がないとする保護者はほとんどいなかったことから、保護者は効果があると受け止めていると見てよいと考えられる。

生活面では、No.7「友だちを助けてあげられるか」、No.8「仲よく遊べるか」では、ほぼ80%の保護者が児童の姿を肯定的に受け止めている。学校目標の一つ「やさしい」に対してはある程度児童の生活に根付いていると受け止めているようである。今年度の重点の一つとして取り組んできた「人権感覚の高揚」の効果もうかがえる。

また、No.12「行事は子どもたちにとって意味があるか」では、ほとんどの保護者が意味があると感じている。今後も児童の力を伸ばす機会としていきたい。

一方で、No.4「ねばり強く考えているか」、No.10「目標に向かって努力できるか」では、30～40%の保護者が「あまり思わない」「思わない」と答えている。学校目標の一つ「やりぬく」に課題を感じている保護者が多いと言える。また、No.6「あいさつができるか」では、30%の保護者はできていないととらえており、昨年度の35%より若干向上している。職員の意識的な対応や児童会活動での取り組みなどもあって、よい方向に向かいつつある。しかし、引き続き多くの保護者が問題を感じており、今後も地道に働きかけていく必要がある。

(2) 児童アンケート結果

| No. | 質問項目 | 思う | グラフ | 思わない |
|-----|--|------|-----|------|
| 1 | 毎日のドリル学習は、あなたにとって基本的な学力をつける学習になっていると思いますか？ | 約75% | | 約25% |
| 2 | 朝の読書の時間は、知識を広げたり、読む力を高めるなど、自分のためになっていると思いますか？ | 約75% | | 約25% |
| 3 | あなたにとって、学校の授業はわかりやすいですか？ | 約75% | | 約25% |
| 4 | あなたは、ねばり強く考え、自分の力を伸ばそうと授業に取り組んでいますか？ | 約40% | | 約60% |
| 5 | 授業の時に、担任の先生以外の先生が教室にいたり、少人数で授業を受けたりすることで、勉強がわかりやすくなっていますか？ | 約75% | | 約25% |
| 6 | あなたは、だれにでも気持ちのよいあいさつをしていますか？ | 約75% | | 約25% |
| 7 | あなたは、お友だちが困っているときに、声をかけてあげたり手伝ってあげたりして、助けてあげることができますか？ | 約75% | | 約25% |
| 8 | あなたは、だれとでも仲良く遊んだり、運動したりしていますか？ | 約75% | | 約25% |
| 9 | あなたは、学校のきまりを守ったり、友だちとの約束を守ったりしていますか？ | 約75% | | 約25% |
| 10 | あなたは、目標を決めたらそれに向かって努力し続けることができますか？ | 約40% | | 約60% |
| 11 | 先生方は、話を聞いたり、相談にのったりしてくれますか？ | 約75% | | 約25% |
| 12 | 遠足・修学旅行・峰の原自然体験学習・音楽会・運動会等の行事は、あなたにとって楽しいですか？ | 約75% | | 約25% |

<<児童アンケートのまとめ>>

学習では、No.1「ドリル学習は学力をつける学習になっているか」、No.2「朝読書は自分のためになっているか」、No.3「授業はわかりやすいか」に対して、「思う」「だいたい思う」合わせてほぼ90%に達し、学習の効果を実感できているようである。No.5「少人数学習・TT学習は効果があるか」では、90%を超える保護者が効果を認めているのに対し児童では80%に留まり、肯定的な受け止めが80%を超えているがすべての児童が効果を感じているわけではないと言える。

生活面では、No.7「友だちを助けてあげられるか」、No.8「仲よく遊べるか」では、ほぼ90%の児童ができていると答えており、昨年度より5～8%向上している。また、昨年「思う」「だいたい思う」が合わせて80%を割っていたNo.4「ねばり強く考えているか」、No.10「目標に向かって努力できるか」、No.6「気持ちのよいあいさつをしているか」では今年はいずれも80～90%となり、すべての項目で80%を超えている。昨年度の反省から小さなことでも徹底して取り組むよう指導してきたことが、子どもたちの取り組む気持ちに変化が出てきていることを示していると考えられる。引き続き大切にしていきたい。

(3) 学校職員アンケート結果

| No. | 質問項目 | 思う | グラフ | 思わない |
|-----|--|----|-----|------|
| 1 | 毎日のドリル学習は、児童にとってよい復習の時間となり、基本的な学力をつける学習になっていると思いますか？ | | | |
| 2 | 読書は、児童にとって知識を広げたり、読む力を高めるなど、自分のためになっていると思いますか？ | | | |
| 3 | 児童にとって、授業はわかりやすいと思いますか？ | | | |
| 4 | 森上小学校の児童は、ねばり強く考え、自分の力を伸ばそうと授業に取り組んでいると思いますか？ | | | |
| 5 | 授業の時に、担任の先生以外の先生が教室にいたり、少人数で授業を受けたりすることは、児童にとって勉強がわかりやすくなっていると思いますか？ | | | |
| 6 | 森上小学校の児童は、だれにでも気持ちのよいあいさつをしていると思いますか？ | | | |
| 7 | 森上小学校の児童は、お友だちが困っているときに、声をかけてあげたり手伝ってあげたりして、助けてあげることができていると思いますか？ | | | |
| 8 | 森上小学校の児童は、だれとでも仲良く遊んだり、運動したりしていると思いますか？ | | | |
| 9 | 森上小学校の児童は、学校のきまりを守ったり、友だちとの約束を守ったりしていると思いますか？ | | | |
| 10 | 森上小学校の児童は、目標を決めたらそれに向かって努力し続けることができていると思いますか？ | | | |
| 11 | あなたは、保護者の方からの連絡や相談に迅速・的確に対応していると思いますか？ | | | |
| 12 | 遠足・修学旅行・峰の原自然体験学習・音楽会・運動会等の行事は、児童にとって意味ある行事になっていると思いますか？ | | | |

<<職員アンケートのまとめ>>

昨年度の学校職員アンケートでは、プラス評価80%を7項目で割り込んでいたが、今年度はプラス評価80%を割り込んでいたのは5項目であった。今年度プラス評価80%を越えた2項目は、No.7(思いやり, 73%→86%), No.8(協調, 73%→90%)である。昨年度から引き続きプラス評価80%を割り込んでいるのは、No.3(授業がわかりやすい77%→79%), No.4(ねばり強く考える50%→40%)・No.6(あいさつ19%→33%)・No.9(約束を守る68%→70%)・No.10(目標に向かって努力する55%→55%)である。このうちプラス評価80%をハッキリと下回る項目は、No.4(ねばり強く考える40%)・No.6(あいさつ33%)・No.10(目標に向かって努力する55%)である。これは、昨年度ハッキリと下回った項目と同じである。昨年度と比較すると、No.4(ねばり強く考える50%→40%)は下がり、No.6(あいさつ19%→33%)は改善され、No.10(目標に向かって努力する55%→55%)は同じである。あいさつについては、今年度の重点として取り組み、職員からの働きかけや児童会活動などで様々な面で改善しようとしてきたことがよかったと考えられる。一方で、粘り強い取り組みや目標に向かって努力するは、マイナスに傾いている。粘り強い取り組みは、生きる姿勢の面があり、すぐに改善していくことは難しい面がある。職員の粘り強い取り組みが必要である。

(4) 今後の展望

児童アンケートではすべての項目が80%を超えていたが、保護者と職員のアンケートではNo.4・10やりぬく子どもとNo.6あいさつについて明らかに80%を下回っていた。昨年度の反省から、今年度の重点の一つとして取り組んできた結果、改善されてきている面はあるが、しかしまだ問題を感じている保護者や職員が多くいると考えられる。どのような児童の姿に問題を感じるのか、どのような改善のてだてが考えられるかについて職員で話し合い、その結果次のような改善のてだてがあげられた。

| No.6 あいさつ | |
|-----------|---|
| 改善のてだて | ①朝昇降口や校門に立って声をかけたり、あいさつゲートを通ったりと、児童会のあいさつ運動を続けていく。職員も一緒に活動していく。 ②職員も子どもたちも、できるだけ相手の名前を呼んで、目を合わせてあいさつをする。そのために、まず名前を覚えることが大切である。 ③「おはよう」「さようなら」以外の「ありがとう」「御苦労様」「どういたしまして」などのあいさつも、日常的に交わせるように指導していく。 ④「おはよう」だけではなく、「おはようございます」まで言えるよう言い続ける。 ⑤あいさつ強化週間を設けるなどして、全校児童・家庭・全職員で取り組む期間を持つ。 ⑥子どもたちに考えさせる時間を取り、自分からあいさつをするように指導していく。 ⑦低学年：ゲーム性を取り入れて（何人と、先に）高学年：道徳教材も取り入れて ⑧職員が、子どもたちと関わり話をする時間をできるだけ多く持つ。 ⑨家庭や地域も取り込んで集中的に取り組む期間を設ける。 |

| No.4 ねばり強く考える、No.10目標に向かって努力する | |
|--------------------------------|---|
| 改善のてだて | ①努力したら達成できるようなスモールステップの目標のたて方を教えていく。 ②目標を設定したら、達成のために何をするか考えさせる。教師も努力し支えていく。 ③努力練習する場を設け、努力したらできたという経験を増やす。 ④取り組んだら、一定期間内で見返しの機会をとる。→達成感を味わわせる。 ⑤学習でも、生活でも、教師がこれと決めたことを、徹底して根気強く続けていく。 ⑥教師が子どもの活動をみとり、ほめるを繰り返していく。例えば、提出ノートや日記には、努力を認める一言をできるだけ加えていく。 ⑦授業で、自分で考え整理記述していく時間を確保して、一人でじっくり学習問題や対象と向き合う時間を作っていく。 ⑧提出したかどうかの評価でなく、どのようにやるかまで指導し支えていく。例えば、漢字を書かせるだけでなく、字のていねいさまで見ていく。 ⑨みんなで活動することの楽しさを経験させ、達成感を味わわせる。例えば、子どもたちで作り上げるお楽しみ会など設定する。 ⑩目標に向かって、職員も一丸となって取り組む姿勢を示す。例えば、あいさつ強化旬間を設定し、徹底して取り組む。 ⑪一人一人の子どもが見通しを持って活動できるように、職員の準備や打ち合わせをていねいしておく。例えば、運動会準備ではそれぞれの子の作業の分担まで決めておく。 ⑫粘り強い取り組みの価値を道徳で扱う。みんなで認め合う機会をとる。 |

No.6あいさつについては、多くの職員が問題を感じていた。あいさつが交わせないのはなぜかと考えたとき、もとになっているのは人間関係の希薄さであったり、言葉を交わすことの温かさの経験が少ないことが考えられた。その姿を変えていくために、①あいさつの経験をさせる ②あいさつに興味について教えていく ③子どもたち同士、職員と子どもの関係を深める活動をつくるなどが出された。これらに基づいて、今後の教育活動を組んでいきたい。

No.4・10やりぬく子どもについては、改善のためのてだてとして様々な考えをあげたが、こちらはいずれもあいさつのような集中的に取り組むことよりは、日々の生活の中で継続して取り組むことが必要な問題である。①目標設定から達成までのスキルを教えていく ②授業や生活の中で粘り強い取り組みや目標達成の経験をさせていく ③取り組みの過程の評価を大切にしてい ④粘り強い取り組みの価値を考えさせていく などを考えていくことが大切である。

今回のアンケート、その後の職員の話合いの結果をふまえて、学級PTAとも連携しながら、今後の森上小学校の教育活動を考えていきたい。